

尿中のタンパクからも
腎臓病にかかわる
重要な情報を
得ることができます。



腎臓病の診断や経過観察に役立つ検査をご紹介します。

尿中のタンパク量を測定する検査

UPC（尿中蛋白／クレアチニン比）検査

どんな検査ですか？

- 尿中に漏れ出した蛋白（タンパク）は腎臓病を悪化させる原因のひとつであることがわかっています。
この尿中蛋白量を測定し、腎臓へのダメージを評価する検査です。
- 尿蛋白は試験紙による検査も可能ですが、試験紙は尿の濃度などの条件が結果に影響を与えることがあります。このため、より正確な尿中蛋白の評価には、UPCを測定することが必要です。
- 腎臓以外の原因（尿路の感染や腫瘍など）でも尿に蛋白がでることがあるので、まず腎臓以外の蛋白尿の原因を除外してからUPCを測定します。

尿はどうやってとるの？

- 病院で尿を採取する場合や家で採取して持ってくる場合もあります。尿の採取方法にもいろいろあるので、獣医師の先生にご相談ください。

慢性腎臓病と診断されたら？

- 個々の病状に合わせて、食餌療法、投薬治療等を開始することにより、病気の進行を遅らせることが期待できます。より効果的なケアを行うためにも、早期診断が重要となります。



慢性腎臓病ってどんな病気？

- 主に中年以降で発生が増加します。
- はっきりした原因がわからないことが多く、一度発症すると完治することはありません。
- 腎臓病にもいろいろな種類がありますが、腎臓から蛋白が漏れ出す症状を示すものがあります。犬で比較的多くみられます。
- 血液検査や尿検査等を用いて総合的に確な診断をすることが、その後の治療方針を決定するうえで重要になります。

